

(2) “4つの施策”に関する取り組み方針(A4縦2頁以内で記入)

新たな交通システム導入基本方針の目標を実現するために、本事業における以下の“4つの施策”に関する取り組み方針について簡潔にA4縦2頁以内で記述してください。

<p>1. BRTの運行</p>	<p>バスを日常的にご利用されるお客様だけに便利なバス路線環境から、誰もが気軽に快適にかつすぐ移動できる環境の街づくりを目指します。徒歩・自転車・バス・JRを効果的に組み合わせたスムーズな移動ができる体系(乗換えシステム)とバスによる大量・高速輸送システムメリット(BRT)とを効果的に組合せ実現を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 分かりやすさ・・・行先を集約し誰でも不安を感じることなく乗れるバス路線整理を行い、運行車両や運行情報案内などにトータルデザインを施し視覚的統一感の構築を目指します。 ○ スムーズな移動・・・高い運行頻度(ピーク時間帯 3～5分)と営業時間の拡大を目指します。 ○ 快適性と定時性の追求・・・専用道路を利用した快適で遅れない運行を目指します。 ○ 環境にやさしく・・・自動車に過度に寄らない交通体系により排出ガスの削減を目指します。 ○ まちなか活性化・・・「エキナカ」や「ネクステーション」というBRT駅の中や隣接した商業施設との連携で駅に付加価値を持たせ、「バスに乗ってまちに行く」スタイルから「バスに乗ることが、お買い物にいくこと・お食事にいくこと」というスタイルを目指します。 <p>また、バス路線の再編を行います。「路線」から「ネットワーク(網)」へ再編します。路線をいくつかの区間に分け、幹線(BRT)・支線・フィーダー線と区分けしそれぞれがネットワークを構築し、各移動手段と競争するのではなく連携することで全市的に移動しやすい街づくりを目指します。</p> <p>これらを実現するために、ハードの整備(交通結節点や専用道路やパーク&ライドやサイクル&ライドなどの整備)を自治体が行い、ソフト(運用)に関しては弊社が民間の知恵で効率的な運用(日々のサービスレベル向上や運賃体系の見直しなど)を目指していきます。BRT導入時より順次路線バス再編を行い、BRTシステムや交通結節点の整備が必要な路線を新潟市へ提言していき「公設民営」のメリットを最大限に活かしていきます。</p>
<p>2. バス路線再編</p>	<p>○現行の路線に修正を加えるバス路線再編の手法ではなく、一から路線網を構築します。</p> <p>新しく「幹線」・「支線」・「フィーダー」という区分に分けた「バスの線をつなぐ」から「バスの網でおおう」考え方のバス路線網を整備していきます。現在のバス路線は各地点から新潟市中心部への距離が長い路線であるため、定時性が悪く移動時間も多くなっています。現在のバスの運行距離を短くし運行回数を増加させることで定時性と利便性の向上実現を目指します。これには乗換えというデメリットが発生しますが、乗換え場所(交通結節点)における行先の多さと各路線で高頻度運行を行い、移動しやすい路線網に再編していきます。</p> <p>また、各交通手段と競争する考えではなく、交通結節点やバス停において「バスとバス」「徒歩とバス」「自転車とバス」「JRとバス」「自動車とバス」などの交通手段の組合せを利用した手法で「気軽に移動でき、お財布にも環境にもやさしい」交通体系の構築を進め線をつなぐがっていた街を網でおおいます。BRT導入時から新潟市の協力を得ながら順次路線網の再編を行い数年で新しい路線網を整備します。これにより利用者は一日の行動をバス時刻に合わせる必要がなくなります。</p>

<p>3. 乗換施設の設置</p>	<p>BRT 導入時から順次各方面からのバス路線網を各交通結節点でスムーズに接続させます。幹線(BRT)と支線との乗換え時間はピーク時、約5分以内を目標としています。バス停とBRT 駅との移動距離は約3分(約300m)以内でBRT(バス)の待ち時間を約2分以内になるようにBRT 駅の位置と連動したバス停の再配置とダイヤ編成を行います。</p> <p>加えて各交通手段との結節もできるように、乗換施設における歩道・駐輪場・駐車場・JR 駅とのつながり方や施設の設置を新潟市にお願いしていきます。</p>
<p>4. 料金システムの見直し</p>	<p>バス路線網を整備完了後に、現行の距離に応じた運賃体系から新潟市中心部を中心とした同心円状のゾーン運賃制など、利用しやすい運賃体系に見直していきます。路線網が整備完了するまでは現行の運賃体系を基本にしたうえで、乗換え時の運賃負担が発生しない様にりゅうと(ICカード)の普及を目指していきます。</p> <p>さらに航空会社などのマイレージ制度を見習い、沿線商業施設利用時にりゅうと(ICカード)を使用することなどでポイント獲得の機会を広げ、バス運賃へ還元できるように検討していきます。</p>